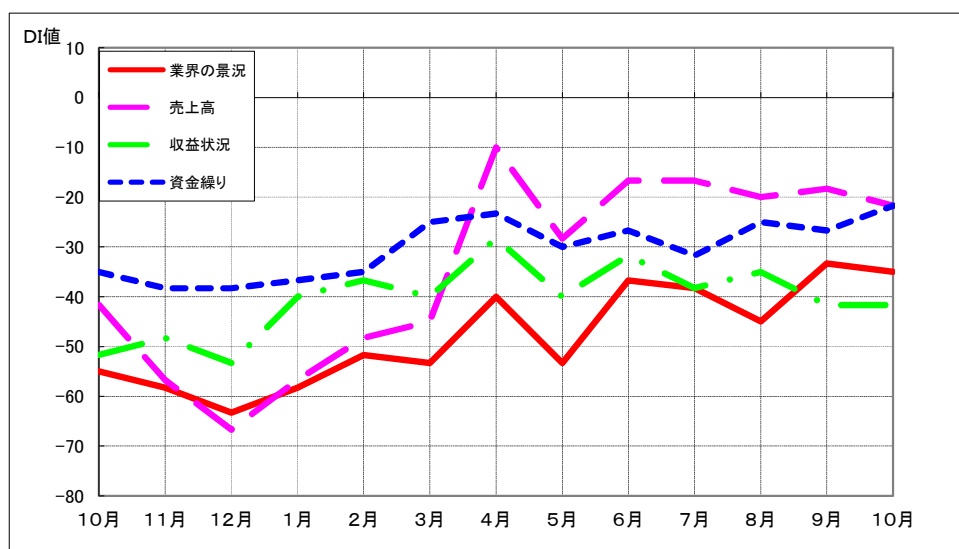


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値 令和2年10月～令和3年10月

単位:ポイント



	R2			R3									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
業界の景況	-55.0	-58.3	-63.3	-58.3	-51.7	-53.3	-40.0	-53.3	-36.7	-38.3	-45.0	-33.3	-35.0
売上高	-41.7	-56.7	-66.7	-56.7	-48.3	-45.0	-10.0	-28.3	-16.7	-16.7	-20.0	-18.3	-21.7
収益状況	-51.7	-48.3	-53.3	-40.0	-36.7	-40.0	-28.3	-40.0	-31.7	-38.3	-35.0	-41.7	-41.7
資金繰り	-35.0	-38.3	-38.3	-36.7	-35.0	-25.0	-23.3	-30.0	-26.7	-31.7	-25.0	-26.7	-21.7

10月のDI値は、前月と比べ1項目改善、1項目不変、2項目悪化であった。「資金繰り」DI値は5.0ポイント改善、「収益状況」DI値は不変、「売上高」DI値は3.4ポイント、「業界の景況」DI値は1.7ポイント悪化した。前年同月比においては8ヶ月連続で全項目改善し、「売上高」DI値、「業界の景況」DI値は共に20.0ポイント改善、「資金繰り」DI値は13.3ポイント、「収益状況」DI値は10.0ポイントそれぞれ改善となった。

連絡員からは、業種を問わず新型コロナウイルスの影響が報告されている。製造業では前月に続き鋼材並びに食品原料の値上がりによる影響が報告されている。一方でウッドショックによる木材不足は徐々に解消の方向に向きつつあるようである。新しい問題として原油の高騰、半導体不足による影響が報告されている。特に原油高騰による輸入原料の値上がりを懸念する意見が多く見受けられた。その他、鋼材及び住宅設備等に欠品が発生しており、竣工の延期や工場の稼働率に影響を及ぼしている。欠品の解消時期についても読めないため今後の見通しや受注判断に苦慮している事業者が多い。

非製造業では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う新潟県の「警報」が解除され、一部の土日祝日は徐々に人が街に戻って来ているとの報告もあるが、依然として人通りが少なく、夜の来店客はほとんどいない状況にあり多くの事業者は厳しい状況に置かれている。宴席や会合については、消費者の慎重な傾向は続いており、「警報」発令時と比較してもあまり変化は見られないようである。新型コロナウイルスの影響に加えて、公共料金やガソリン等の値上げにより、個人消費が落ち込んでいるとの意見もあり、消費拡大のための補助金や、持続化給付金等の支援が要望としてあがっている。

組合の特記事項としては、冬場用品の需要が徐々に始まっており順調に推移している。製造業においては引き続き原料・資材等の値上がり分を販売価格に転嫁するのに苦慮しているとの意見が多かった。

非製造業においては、「警報」の解除に伴い、「にいがた県民割キャンペーン」が再開したが団体客や会合等の需要は低調であり、新型コロナウイルス感染状況が好転しても景況は戻っていない。小売業者やサービス業者は年末商戦に向けての準備を開始しており、年末年始にかけて少しでも経済回復が進むことを望む声が多かった。